



《特報》

第32回龍馬 World 松山大会 オンライン大会

日時：10月10日（土）15:30～17:20
場所：メイン会場 東京第一ホテルイン松山
サテライト会場

参加希望の各ブロック指定場所
国内はブロック内で1-2カ所
海外は希望龍馬会で、

合計20カ所程度

参加者：メイン会場参加者は、全国龍馬社中の
皆さんと中国・四国ブロック会員及び
実行委員会メンバー、

サテライト会場は、各ブロックの希望者

内容：大会はメイン会場とサテライト会場を
“Webex”のテレビ会議システムで
つなぎ、ブロックのサテライト会場
(京都祇園龍馬会のカフェ)

一言メッセージを発言する。

サテライト会場に参加できない人には
ライブ映像を配信したい。

当日スケジュール案

- 15:30 開会 主催者挨拶
- 16:00 参加者龍馬会紹介
(ブロック単位でテレビ会議)
- 17:00 次回開催地引継ぎセレモニー
- 17:10 大会メッセージ
- 17:20 閉会

【会員のつぶやき】

“坂本龍馬の実像を知るには”

山田友一さん



龍馬会に参加すると時々
「龍馬さんを知るにはどの
本を読めばよいのですか」と
聞かれるのです。

そんな時私は歴史的史料
の充実した「図録」を見るの
が一番と言っていたのです
が、それではアバウトです
ので、今回は、私が是非とも皆
さんに読んで欲しい本を何

冊か紹介したいと思います。

まず「図録」ですが、いろいろな展覧会などで図録
はたくさん出版されていますが、その中でも「没後
150年 坂本龍馬」これを推薦します。

この図録は、2016年に京都国立博物館等で開催
された特別展覧会 150年坂本龍馬の際に発行され
たもので、手紙、史料など詳細が載っておりお勧め
です。

図録については、ヤフオクや古書店などで検索す
れば購入できると思います。

次に、龍馬の実像を知るための本ですが、龍馬フ
ァンになる入り口としては「竜馬がゆく」「おーい竜
馬」「龍馬伝」等ノンフィクションでよいのですが、
龍馬の実像を知るには、史実に基づく研究書を読み
自分なりに消化することが必要だと思います。

それでは、推薦する本を何冊か紹介します。

まず、龍馬の手紙に関するもので、「龍馬の手紙」
(宮地佐一郎著)「龍馬の声が聞こえる手紙」(原口泉
著)等で読みにくい龍馬の手紙を現代語に訳したも
ので龍馬の実像が見えると思います。

特に「龍馬の手紙」は当時定価税抜き940円で巻
末に坂本龍馬手帳摘要、海援隊約規、船中八策、新
官制擬定書、新政府綱領八策や龍馬が詠んだ
和歌等が掲載されており大変お得な単行本です。

次に「聞き書き」と呼ばれるもので、龍馬の妻お
龍さんからの聞き書きとして「わが夫坂本龍馬」(一
坂太郎著)「史料が語る坂本龍馬の妻お龍」
(鈴木かほる著)等ですが、これらは記憶の聞き書きで
あり記憶違いがないとは言えません。

お龍さんからの聞き書きとしては、「反魂香」
「続反魂香」等がありこれは「史料が語る坂本龍馬
の妻お龍」の巻末にも何編か収録されています。

これらに目を通していただいてから、龍馬の
活躍や暗殺、経歴等が書かれた研究書を読むと段々
と龍馬の実像が見えてくると思います。

龍馬の手紙や歴史的史料、日記、研究結果、
聞き書き等は「坂本龍馬全集」「坂本龍馬関係文書上
下」「坂本龍馬大事典」「坂本龍馬事典」「坂本龍馬日
記上下」「坂本龍馬大鑑」等にも掲載されていますが、
それぞれとても高価な本ですので安価なこれらの本
を推奨します。

最後に、龍馬暗殺については、誰もが真実を知り
たいところだと思います。

今は実行犯として見廻組が定説となっているよう
ですが、今後様々な日記、手紙、記録等が発見さ
れればその真実が明らかになるものと信じて
います。

まるわかり「龍馬と志士たち」⑥

志士たちが活躍した長崎とは ～井上 馨～

前号で紹介した伊藤博文と常にタッグを組んだ仲間であった。志士時代はもちろん維新以降も、そしてしばしば一緒に遊んだらしい。

伊藤が貧農出身だったのに対し、井上は長州藩主毛利家譜代臣下の家に生まれた。伊藤が松下村塾で苦学をしたのに対し、彼は藩校である明倫館で学んだ。伊藤の名前である俊輔は吉田松陰先生に名付けてもらったが、井上聞多はお殿様である毛利敬親より拝受したものである。しかも年齢は伊藤より6歳も上であった。それでも伊藤が初代総理大臣になるとき周囲に対し強かに働きかけた。

聞多は何度か藩主の江戸参勤に参加している。蘭学を習った。そして安政6年(1859年)桂小五郎の従者として江戸に来ていた伊藤俊輔と出会った。徐々に尊王攘夷運動に目覚め、文久2年(1862年)高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤たちと江戸高輪で建築中のイギリス公使館焼き討ち事件に加わった。

ところが次年、前号で紹介した長州ファイブの一員としてイギリスへ密航・留学した。しかし翌年西洋列強の下関報復の計画を聞き、伊藤と共にロンドンより急遽帰国した。藩と英国との間の交渉を取り持ったが、残念ながら列強は報復を実行した。

しかもそれを快く思わない藩士に聞多は襲われ瀕死の刃傷を受けた。第一次長州征伐で藩政は保守派に取られたが晋作・俊輔等と決起し藩政権を奪い返した。

その後、伊藤とともに長崎に潜伏し亀山社中の協力を得て犬猿の仲であった薩摩藩名義でグラバーさんから銃器と軍艦ユニオン号を購入した。そのおかげで第二次長州征伐の勝利に貢献した。

そしてその交渉の過程で薩摩へも赴き、薩長同盟の端緒を開いている。龍馬たちと志を同じくする尊皇開国論者であり真の志士である。

王政復古後、No.2として長崎に赴任している。明治維新直後には長崎製鉄所を担当し工業や日本で最初の鉄橋建設を指揮した。

そして明治2年には大阪へ転任し造幣局を担当した。其の後は大蔵省に入省し再び伊藤とタッグを組んだ。伊藤も参加した岩倉使節団が洋行している間、井上は留守居役を賜り、これが彼の権力を増大する源泉となったが、関係者と衝突を繰り返し、結局下野することになってしまった。

その後、伊藤の尽力で中央に復帰した。そして洋行した後、外務卿に就任し、かの有名な鹿鳴館や帝国ホテルの建築に尽力した。

その上、不平等条約改定のために努力した。ともかく伊藤と組んでキングメーカーに上り詰めただけ

でなく、自身も多くの大臣を歴任し政局を乗り越えていった。

同時に産業振興のため努力を惜しまず、自身も深くかかわった。これが原因で疑獄事件にも連座した。

多くの幕末志士は志を達することなく若くして亡くなった。その中であって維新後も有能な政界人として天寿を全うしたために晩節を汚し、貪吏のように称されるが、パートナーの出身階級にこだわらず有能な人材と協力し合い、国の形を創造するだけでなく、不平等条約改定のために頭を悩ませた。それと同時に殖産振興まで推進したのは称賛に価するといえるのではないか。趣味は料理作り、美術品収集と別荘造り。

初代鉄橋(くろがねばし)



鹿鳴館(明治16年建設)



(明治元年、日本最初の鉄製橋。眼鏡橋で有名な長崎市中島川下流に架かる)(鋼材は長崎製鉄所で生産)

参考資料：長崎新聞、Wikipedia
「続く」(記：吉田信夫)

●年会費納入のお願い

**2020年4月から来年3月迄の年会費：
¥3,000-**

例会ご出席の折か次の口座まで送金下さい。

郵便局 口座No. 00780-5-38627

口座名義 金沢龍馬会

振込手数料は龍馬会が負担。3千円のみです。

【編集後記】

皆さま、心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。会報も第25号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局 *****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

